

生きづらさを生きていく。世界は広くて温かい。

保護司

犯罪や非行をした人の立ち直り支援や、犯罪を予防するための地域活動をする民間のボランティアです。保護観察官と協働して保護観察に当たったり、社会復帰ができるように釈放後の住居や就業などの調整などを行っています。全国に約4万7千人います。

協力雇用主

立ち直りに協力することを目的として、犯罪や非行をした人を雇用しようとする民間の事業主の方々です。現在全国で約2万5千の協力雇用主があり、今後も就労支援を一層推進していくためにも新しい協力雇用主を広く募集しています。

更生保護女性会

地域の犯罪・非行の予防や、青少年の健全な育成を願うボランティア団体です。全国で約15万人おり、地域に即したミニ集会や親子ふれあい行事、子育て支援などに取り組んでいます。趣旨に賛同する女性は、どなたでも参加できます。

BBS会

様々な問題を抱える少年達に兄や姉のような存在として接しながら、問題の解決や成長を願って支援する青年ボランティア団体です。全国で約5千人の会員があり、近年では学習支援活動等も実施しています。誠意と熱意のある方はどなたでも参加できます。

立ち直りに寄り添う心。それぞれが出来ることを。

“社会を明るくする運動”にあなただもご参加下さい。

各会の活動や支援に興味をお持ちの方は、柏崎刈羽地区保護司会に是非ご連絡ください。(02388615)

保護司の一言

親孝行

保護司 山田 理恵

アルツハイマー型認知症と診断された母と在宅で過ごしていました。いろいろな事を忘れてしまっていく病氣。毎日「今日は何月何日？」と、からかっているつもりはなかったのですが質問をしていました。母はいつも「わからん」とごまかして笑っていました。

そんなある日、「お腹が痛い」と意識もろろうと訴え、病院に連れて行き入院することになりました。コロナ禍の中で面会はできず、とうとう私の顔もわからなくなり、転院の時には以前とは違い、会話もなく目をつぶったままでした。

以前には春は公園の桜鑑賞、夏は能生に行き大好きなカニを食べ、秋は紅葉ドライブと、認知症の緩やかな進行を願いつつ一緒に過ごしました。

夜勤勤務を終え朝帰ってくる私を「どこに遊びに行つたの？」と心配していた母。他界し月日も浅いので、仏壇の前に行くとも少しは親孝行できたのかな？と胸が痛くなる時があります。

まだ残された父もいますので、悔いのないよう少しでも長く側にいたらと思うている今日この頃です。

こんな私ですが対象者の方にも同じように寄り添えるよう心掛けたいと思います。



「住民が主役のまち・矢田集落」 を目指して



柏崎市地域おこし協力隊 山田 華緒 李

昨今はコロナ禍により地方で働くことが見直され、各地方で活躍する「地域おこし協力隊」への関心が高まりつつあります。私自身もコロナ禍で将来を見つめ直し、地域おこし協力隊として活動する道を選んだ一人です。

地域おこし協力隊とは、都市部から過疎化が進む地域に移住し、地場産品の開発や販売・PRのほか、農林水産業への従事や住民支援などの地域協力活動を行いながらその地域への移住・定住を図る取り組みです。任期は最長で3年と定められていますが、協力隊の活動内容は各自治体によって様々です。

私が地域活動に関心を持ったきっかけは、学生時代に見てきた中国の農村が関係しています。当時、卒業研究のために中国・貴州省の農村を訪れ、目まぐるしいスピードで進む観光開発と、どの村も同じような景観で整備されていた。現状に違和感を感じていました。各村には個性豊かな村人たちがいるにもかかわらず、その個性を打ち消しかねない開発の進め方は酷く味気ないものにして、その土地の村人自身が主役にな

って村づくりを進めたら、面白いことが起こるのではないかと考えるようになりました。そこから地域づくりに関心が湧き、国内で地域おこし協力隊になることを志したのでした。

私は現在、柏崎市の矢田集落を活動拠点に地域おこし活動を行っています。2020年の9月に着任し、旧商店・矢田屋を活用した地域内外の交流の場づくりと、地域営農の支援をミッションに掲げて様々な活動を展開しています。全国の募集の中から矢田集落を選んだのは、矢田住民の人情に「この地域だったら何か面白そうなことができそう」という直感が働いたからです。

任期1年目は、地域内の交流機会を作るため、活動拠点である矢田屋を使って様々なイベントを企画しました。ハロウィンやクリスマスなど、季節に合わせたイベントの開催や、知識や技を沢山お持ちの地域の方に先生になっていただき、学びの場づくりを行いました。そして1年目の中盤には、地域の伝統行事に使われてきた祭礼衣装を、住民の皆さんと一緒に一新するというプロジェクトにも

挑戦しました。布の染色から仕立てに至るまで地域の皆さんの手をお借りし、およそ半年がかりで新しい祭礼衣装を作り上げました。お披露目となる秋祭りでは地域の若手の方にも参加を呼びかけ、新旧の世代が集う雰囲気は矢田の新たな歴史の幕開けを感じさせました。

2年目は地域の中と外とをつなぐ活動に重点を置き、地域の皆さんと矢田地域をPRする機会を意識的に作ってきました。これまでは隊員発信の地域PRが多く、地元の方が自分の地域をPRする機会はなかなかありませんでしたが、地域の人が自分の地域を発信することによって、地域の魅力の再認識につながると考えました。まずは地域の皆さんの協力を得ながら、市内外のイベント等で矢田集落のPRを行い、その集大成として秋には矢田屋とその周辺を使ったマルシェイベントを行いました。マルシェイベントではたくさんの方々の

に関わっていただき、地域内はもちろん地域外からも多くの方々が来てくれました。こうした大イベントでの成功を通じて、この地域は人を惹きつける魅力があるのだということを感じています。私の任期は現在3年目を迎え、協力隊活動に日頃ご協力いただいている地域のみなさんには感謝の思いが尽きません。様々な活動を振り返って実感するのは、地域づくりは大きなやりがいがあるということ、3年間の任期はとても短いということ、3年間の任期はとも短いうことです。地域が発展途上の今は協力隊が火付け役となる場面が多いですが、いずれは地域の皆さん主導で自分たちの集落を盛り上げていくことが私の理想とする地域の姿です。任期は残り少ないですが、ここからは矢田の皆さんと併走しながら「矢田らしさあふれる集落づくり」を目指し、この地域の魅力発信に引き続き努めていきたいです。

令和4年度 各種表彰者

関東地方更生保護委員会委員長表彰
……浅野 泰彦、小林 知明、星野 広栄

関東地方保護司連盟会長表彰
……神林 均、田村 真、佐々木恵一郎

新潟県保護司会連合会長表彰
……………阿部 和雄、桑田 朋子

保護司の異動

よろしくお祈りします

新任 佐藤 洋
(米山台)

新任 寺澤 むつみ
(米山台)